

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名：星川 圭介	提出日：平成 25年 3月 5日
<b>東南アジア研究所における職名：</b> *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <b>助教</b> ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)：</b> カンボジア・王立農業大学・Mr. Kim Soben / タイ・チュラロンコン大学・Dr. Pinit Lapthananon *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学) 研究機関・企業・その他)	
<b>派遣先の研究機関等での職名：研究員</b>	
<b>派遣期間：</b> 平成 25年 2月 8日 ~ 平成 25年 2月 28日 (派遣日数：21日)	
<b>研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)</b> ① 究・実験 ②フィールドワーク ③ <b>セミナー</b> ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
<b>研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)</b> ① 文学 ②社会科学 ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥生物学 ⑦ <b>農学</b> ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
<b>派遣の概要(500~700字程度)</b> <p>本派遣の目的は、東南アジア大陸部のトンレサップ湖周辺に国境を越えて広がるクメール人居住圏における伝統的生業形態・農業技術、およびクメール人居住圏の拡大過程を、フィールドワークを通じて明らかにするものである。</p> <p>2月8日から14日にかけてはカンボジアに滞在し、受け入れ研究者であるMr. Kim Sobenとともに主にポーサット州において調査を行った。同州は20世紀半ばまで人口密度が低く、その後クメール系住民の移入と開拓が始まったとされる。東南アジア大陸部における民族移住(居住域拡大)の例としては19世紀から20世紀前半にかけてのラーオ系住民の例が知られているが、クメール系住民についても活発な移住が行われている。本派遣ではクメール系住民の移住過程について調査を行い、ラーオ系との比較を試みた。</p> <p>また2月15日から28日まではタイに滞在し、タイの中でクメール系住民が多く居住するタイ・カンボジア国境地帯において伝統的農業水利技術の分布に関する調査を実施した。同水利技術は河川を土堰堤によってせき止めて水田に水を供給するもので、これまでの研究によりタイの中ではクメール系住民が多く居住する地域の地理条件に適応した水利技術であることが示唆されている。本派遣により、これまで伝統的水利技術に関する現地調査を行ってこなかった地域についても調査を行い、民族分布と地理条件、伝統的水利施設分布の関係の確認を行い、地理的条件と伝統的水利施設分布の関係の一般化を試みた。</p>	
<b>事業に係る研究成果(500~700字程度)</b> <p>カンボジアポーサット州における調査では、トンレサップ湖畔低地から山地にかけて連続的に変化する地理的条件を持つ同州において、生業もまたその地理的区分に応じて、出稼ぎを交えた半農半漁から乾季作中心の稲作、雨季作中心の稲作、そして畑作へと連続的に変化しており、移入時期もそれぞれ異なっていることが明らかになった。こうした地理的区分による移入時期・過程の相違はラーオの移住にも共通してみられるが、クメールの移住に特徴的なのは、カンボジアでは植民地期、独立期、ポルポト期といった時代区分が明確であり、移住行動もまたその時代区分に大きく左右される点である。特にポルポト期の強制移住は地域の形成に大きな影響を与えている。</p> <p>タイ国内のクメール圏における伝統的水利施設の分布については、今回新たにタイ東部タイ・カンボジア国境のサケーオ県にも同水利施設が広く分布していることが明らかになった。またその西隣プラチーンブリー県にも少数ではあるが類似の施設が確認された。ただしこれらはいずれももともとその存在が確認されていたタイ東北部やカンボジア西北部のものに比べて建設年代が新しい傾向があり、中には重機を用いて建設されたものもある。これらは水田開墾年代を反映したものと考えられる。技術伝播の経路についてはさらに詳しい調査が必要であるが、同地域のクメール系コミュニティの中に広く共有されてきた一方で、特にプラチーンブリー県などでは地理的に適した場所において自然発生的に考案された可能性もある。</p> <p>これらの成果については2013年度中に論文として取りまとめ、英文国際誌に投稿する予定である。</p>	